

らすれば、なんとか右と左くらいは分かるようになったかと思いますが、まだまだ心もとない足取りで歩んでいるといった状態です。

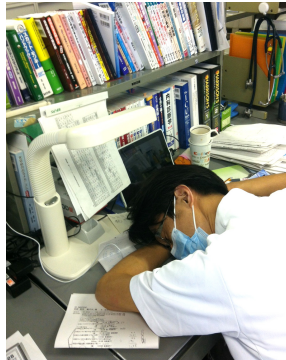
今の病院は短い期間で多くの科をローテーションするのが特徴です。これまでに以下のように研修が進みました。

- 4-5月・呼吸器内科：人工呼吸器に翻弄される。
- 6月・神経内科：オーベンからの情報の嵐におぼれかける。
- 7月・消化器内科：アニサキス発見に感動する。
- 8-9月・外科：オペ看に足蹴にされる。
- 10月・小児科：チビッ子に足蹴にされる。
- 11月・整形外科：再びオペ看に足蹴にされる。

このほか救急外来/当直では救急コールに緊張する日々を過ごしております。めまぐるしく研修科が変わる中で一貫しているのは、要するにドタバタとしているところでしょうか…。

ストレスの学生生活から、緊張感溢れる生活に大転換が生じた今年は人生でも思い出深い1年になることと思います。いつまでも「未熟」を言い訳にできる仕事ではありませんが、まだまだ先輩方に尻拭いをしていただくこともあるかと思えます。そんな時は特に同窓会の先輩方には優しく励ましていただければ幸いです。いえ、励ましていただくよりも「OK」の一言でコンサルトを受けていただければ、失敗の傷も早期に治癒するのではないかと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

駄文に最後までお付き合いありがとうございました。未筆ながら同窓会の皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。



研修医 1年目

大屋 祐一郎

(国立病院機構九州医療センター 研修医)

27期の大屋祐一郎と申します。私は今、国立病院機構九州医療センターで研修しております。当院は病床数702床、医師数279人、そのうち研修医は62人の病院です。九州内でも、医師の数も多く、比較的医療資源が豊富な病院です。指導医の数も多く、治療方針で悩んだら、すぐに相談でき、大変勉強になっています。また、同期が30人近くおり、10を超える大学から集まってきています。みんなモチベーションが高く、優秀で、日々切磋琢磨しております。

私は4月から救急科、腎臓・高血圧内科、血管外科とローテーションしており、早くも半年以上経ちました。研修が始まったばかりのころは、スタッフの方に「先生」と呼ばれるのにすごく違和感がありまして、病院の電話番号から自分の電話が鳴るのにすごく恐怖を感じていました。電話がかかってきても、自分では判断がつけられず、上級医に判断を仰がなければならないことが多く、自分はまるで電話交換の仕事をしているみたいだと、ふがいなさを感じる時期もありました。

研修を始めて1か月たったころ、診察や問診が不十分だったため、消化管出血を見逃し、ヒヤッとする場面がありました。幸いにも、上級医の指導のもと素早い処置を行ったため、大事には至りませんでした。医師という仕事の責任の重大さを改めて実感しました。

その一件もあり、また、研修を始めて半年が経ち、少しずつ経験も自信もつき始め、できる範囲で判断し、それが難しい場合、上級医が判断しやすいように患者の状況を診察した上で正確に伝えることも研修医の仕事としては重要と考えるようになりました。

患者の命を預かる以上、研修医の独断で何かを行わないこと、また、上級医のまねをすることが一番の勉強であると考えようになりました。

1人前の医師には程遠いですが、少しでも理想の医師像に近づけるようにこれからも同期の仲間たちや沖縄で働く同級生たちと切磋琢磨していきたいと思えます。同窓会の皆様、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈り申し上げます。



半年が過ぎて！

高良 麻未
(那覇市立病院 研修医)

こんにちは、那覇市立病院研修医1年目の高良麻未といいます。2013年3月に琉球大学を卒業し、4月から働き始めはや半年が経ちました。毎日があっという間に過ぎていき、いつの間にこんなに時間が過ぎたものかと驚いているところです。

大学5年次に見学に来た時から那覇市立病院で働きたいと思っていたのですが、その一番の理由が、病院全体の雰囲気の良いことでした。体力が限界に近づいてきたとしても、楽しいと思えるような日々が過ごせたらどんな2年間でも乗り切れるのではないかと思ったからです。働きはじめたばかりの時は広い病棟の中でよく迷子にもなり、業務内容を身につけることに必死でしたが、様々な職種のスタッフの皆さんに助けていただきながら自ら考え、行動にうつせるようになってきた今がとても楽しいです。同期はとても仲が良く、興味深かったことや学んだことを話したくてお酒を飲みに行き、あまりたまってもいけないストレスを発散しに出かけることもよくあります。検査技師さん達が主体になって開催してくれたエコー合宿では、1日中超音波に触れて実技を学ぶことができ、皆さんに育てていただいていると実感したときでもありました。実臨床の場合は、国試を勉強していたときに想像していたよりも厳しく辛いことも多いですが、得るものも多く、学ぶことの楽しさを実感しています。あと半年も経たないうちに後輩がはいつてくることを考えると、より一層気が引き締まりますが、日々の勉強と反省を怠らず邁進していきたいと思えます。

最後に、写真は先程お話ししたエコー合宿で写した同期との一枚です。業務や当直の関係上、全員がそろうことはなかなかないので貴重な一枚となりました。2013年も残りわずかとなりましたが、忘年会の出し物の準備

